

医療従事者の確認

このウェブサイトは、医療機関（医師、獣医師、薬剤師、看護師等）、消防等を対象に、急性中毒事故発生時の対応、治療に関する情報提供を目的としたものです。

一般の方、マスコミ関係者の閲覧はご遠慮ください。

医療関係者の方 職種を選んで閲覧ボタンを押してください。	一般の方 マスコミ関係者
<ul style="list-style-type: none">● 医師● 薬剤師(院内)● 薬剤師(調剤)● 看護師● 獣医師● その他の医療関係者● 消防● 「NBCテロその他大量殺傷型テロ対処現地関係機関モデル」における関係機関の方々	<p>TOPページへ</p>
<p>閲覧</p>	

職種を選択しクリック

検索したい項目をクリック

医薬品については「医師向け中毒情報データベースをクリック

中毒情報

医師向け中毒情報データベース

医師向け中毒情報（オリジナルファイル）データベース（医薬品、農薬、その他の化学物質、自然毒）オリジナルファイルは化学物質別の中毒情報で、急性中毒患者の治療に必要な「毒…

詳しくはこちら

初期対応向け中毒情報データベース

初期対応向け中毒情報（初期対応ファイル）データベース（2019年5月現在家庭用品のみ）初期対応ファイルは製品群・用途別の中毒情報で、急性中毒事故が発生した際の対応に必要な…

詳しくはこちら

化学災害・化学テロ

化学災害・化学テロ・化学テロ・化学災害対応体制・スクリーニング問診票・カルテ等・特殊災害報告書・化学兵器等中毒対策データベース・化学兵器デ…

詳しくはこちら

農薬中毒の症状と治療法（農薬工業会）

農薬中毒の症状と治療法（農薬工業会）日本中毒情報センターが監修し、農薬工業会が作成した「農薬中毒の症状と治療法（第17版）」を閲覧できます。本ファイルは患者の治療にあた…

詳しくはこちら

医師向け中毒情報データベースを選択した場合

(非会員向け) または (会員向け) のいずれかをクリック
会員登録 (有料) すると詳細版が閲覧できます

医師向け中毒情報 (オリジナルファイル) データベース (医薬品、農薬、その他の化学物質、自然毒)

オリジナルファイルは化学物質別の中毒情報で、急性中毒患者の治療に必要な「毒性」「中毒学的薬理作用」「症状」「治療」などに関する詳細な情報をまとめたものです。解毒剤情報も掲載しています。当webサイトでは、下記2種類のファイルを公開しております。

- ・詳細版 (医療関係者会員のみ) : ファイル全文 (参考資料のリスト含む)
- ・概要版 : 詳細版冒頭の概要部分 (毒性、中毒学的薬理作用、症状、治療の抜粋) のみ

注

- 1)本ファイルは患者の治療にあたる医師のための情報であり、一般の方への情報提供を目的としたものではありません。
- 2)本データベースおよび各ファイルは不定期に更新します。
- 3)本データベースおよび各ファイルへのリンク、内容の無断転載は固くお断りいたします。詳細はサイトポリシーをご確認ください。

オリジナルファイル検索システム (非会員向け)

オリジナルファイル検索システム (会員向け)

非会員向けを選択した場合

中毒情報データベースの検索 (医療関係者向け (非会員))

検索ワード(商品名では検索できません。一般名、成分名を入力してください。)

検索

キーワード (一般名または成分名) を
入力し「検索」をクリック

(例)

「プロチゾラム」を入力した場合

中毒情報データベースの検索 (医療関係者向け (非会員))

検索ワード(商品名では検索できません。一般名、成分名を入力してください。)

プロチゾラム

検索

ファイル名一覧

Id	コード	ファイル名	非会員向け	会員向け
6,270	O32200	ベンゾジアゼピン系	概要版	概要版・詳細版

< previous next >

ここをクリック

「毒性」「中毒学的薬理作用」「症状」「治療」の概要が閲覧できます
下にスクロールすると掲載情報が全て閲覧できます

資料の閲覧

中毒事故発生時に限らずご利用いただけます(印刷やテキストのコピーはできません)。

本資料のダウンロードはこちら(利用者情報、事故情報の入力が必要です)

中毒事故発生時に限り、本資料をダウンロードできます。

ダウンロードされた場合には、お手数ですが、症例調査へのご協力をお願い致します。

中毒事故発生時のみ資料のダウンロードができます(利用者情報、事故情報の入力が必要)

ベンゾジアゼピン系【概要版】

公益財団法人 日本中毒情報センター 医師向け中毒情報 概要
【ベンゾジアゼピン系】 Ver. 2.02

公益財団法人 日本中毒情報センター 医師向け中毒情報 概要

ベンゾジアゼピン系

0. 概要

【毒性】

- ・ベンゾジアゼピン系薬剤は、他の催眠鎮静剤と異なり、(ほかの中脳神経抑制剤と併用していなければ)一般的に毒性は低い。 (64)
- ・ベンゾジアゼピン系薬剤の過量摂取による死亡例は極めてまれである。患者が高齢、他に疾患がある、薬剤の服用やアルコールの摂取等の要因があるような場合に死亡が報告されている(特にトリアゾラム過量摂取に注意する)。しかし、ベンゾジアゼピン系薬剤単剤で、過量の経口摂取により死亡したという明らかな例はない。 (64)
- ・静注により呼吸抑制と死に至った例がある。 (1)
- ・ジアゼパム 2000 mg までの経口摂取では低毒性であった。 (1)

【中毒学的薬理作用】

- ・抗不安作用、催眠鎮静作用、抗痙攣作用、筋弛緩作用
- ・ベンゾジアゼピン系の薬剤がその受容体に結合、または GABA 受容体結合阻害物質を抑制することにより GABA の作用を増強し、クロライドチャンネルを開きクロライドイオンの透過性を増強し、神経伝達を抑制すると考えられている。 (4)
- ・ベンゾジアゼピン健忘
 - ・薬剤服用前に獲得された記憶はよく再生されるのに対して、服用後の記憶が障害されるという前向性健忘が生じる。 (63)

【症状】

3) 4) 45) 64)

- ・症状は、運動失調、嗜眠、構音障害が一般的である。 (1)
- ・重症例では、昏睡、呼吸抑制、血圧低下、体温低下、横紋筋融解症を認めることがある。 (1)
- ・小児では治療量でも運動失調、嗜眠、不明瞭言語などの症状を示すことがある。 (1)

(1)循環器系症状：血圧低下、頻脈(抗コリン作用による)、徐脈、心抑制。
(2)呼吸器系症状：呼吸抑制が一般的に起こる。